

2025年10月29日

関西国際空港 第1ターミナルビル 国際線旅客便 停留料および着陸料割引における新料金体系の導入

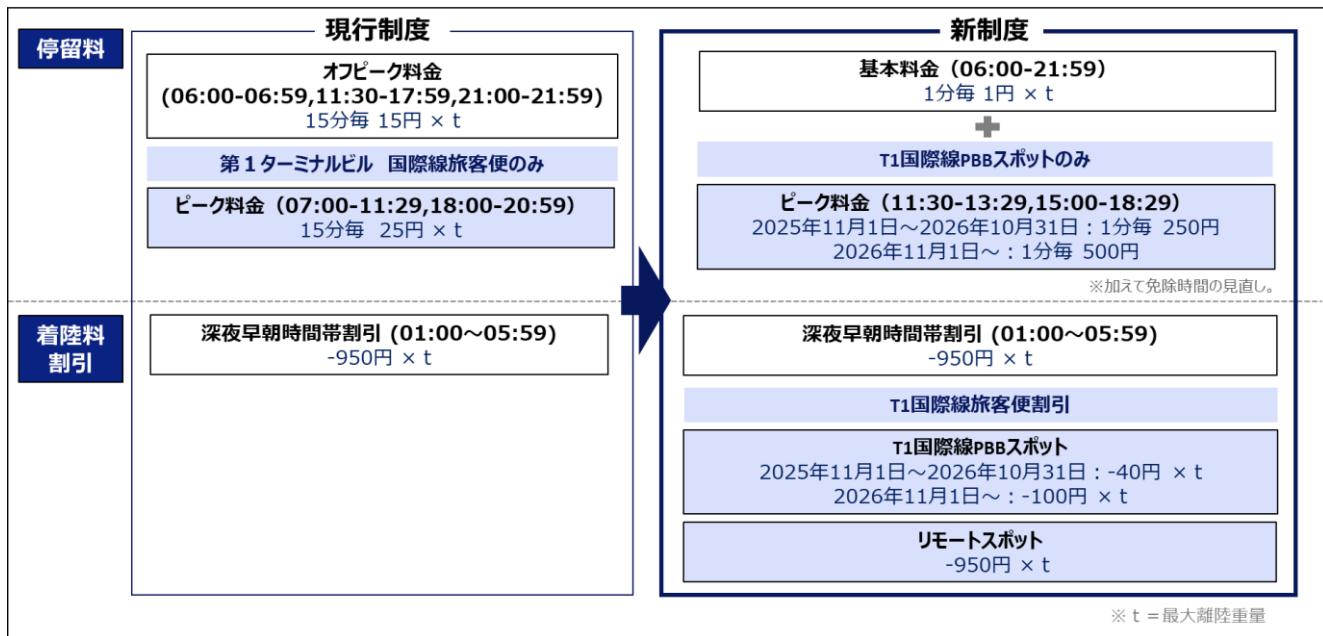
関西エアポート株式会社は、2025年11月1日（土）以降、関西国際空港 第1ターミナルビルを利用する国際線旅客便の停留料および着陸料割引制度に新たな料金体系を段階的に導入することをお知らせします。

今回の新料金体系の導入は、今後も増加が見込まれる航空需要に対する空港キャパシティの拡大のため、第1ターミナルビル国際線スポットの運用効率向上をめざして実施するものです。新しい料金体系では、停留料の各スポットの需要や停留時間などに応じた価格設定を行うとともに、あわせて新たな着陸料の割引制度を導入します。

関西エアポートグループは、今後も拡大が予想される航空需要をしっかりと受け止め、新しい旅の体験を創造してまいります。

【新料金体系のコンセプト】

- 停留料：課金単位、ピーク時間及び免除時間を変更するとともに、各スポットの需要・停留時間などに応じ、より使用料が変動する料金体系を導入。
- 着陸料割引：第1ターミナルビル国際線搭乗橋使用スポット（以下、T1国際線PBBスポット）のピーク時間帯における停留料単価の改定などに合わせて、第1ターミナルビル国際線旅客便に対する新たな着陸料割引制度を導入し、国際線スポットの効率的な運用を目指しつつ、リモートスポットの更なる活用を図る。



※ t = 最大離陸重量

※2025年11月1日～および2026年11月1日～ 新料金体系を2段階で導入します。

※新料金体系および割引制度の詳細につきましては、別添資料をご参照ください。

【報道関係の方からのお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
Tel : 072-455-2201



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社とVINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中心とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス株式会社 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

1964年に設立されたオリックスグループは、法人金融、産業/ICT機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンセッション、銀行、生命保険など、多角的に事業を展開する企業グループです。現在は、世界約30カ国・地域において、約34,000人の役職員により事業を展開しています。

オリックスグループの社会における存在意義は、「世の中がよりよい方向に進むきっかけとなる、“未来をひらくインパクト”をもたらすこと」です。このPurposeを軸に、グローバルで一体となり、社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、14カ国において70以上の空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするため、2016年から他の空港運営事業者に先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近畿グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、NTT西日本株式会社、パナソニックホールディングス株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

関西国際空港 第1ターミナルビル 国際線旅客便 停留料及び着陸料 新料金体系の概要

2025年10月29日



Shaping a New Journey



関西国際空港 新停留料制度および新着陸料割引制度 概要

空港施設の運用効率向上を目的に、ピーク時間およびピーク時間帯料金を見直した新停留料制度、およびそれに伴う新着陸料割引制度を導入します。

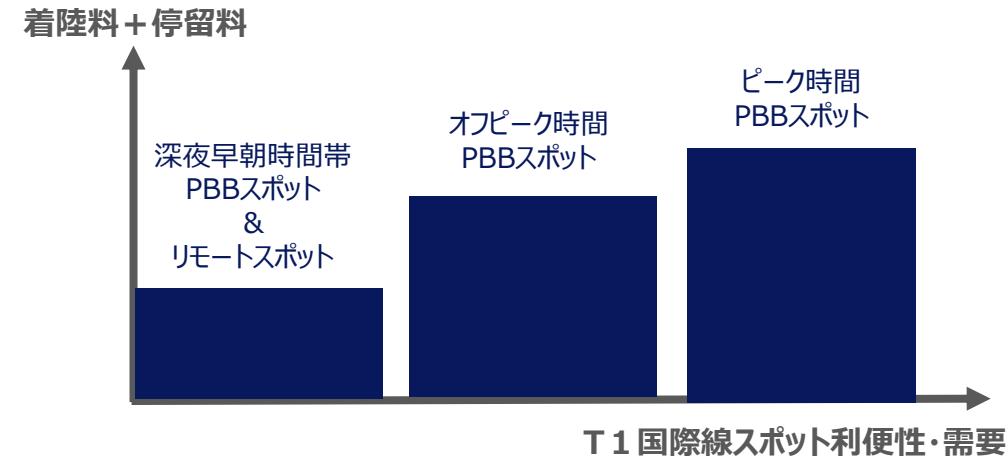
国際線スポットの運用効率向上を目的とした新停留料制度の主な内容

- 第1ターミナルビル国際線搭乗橋使用スポット*におけるピーク時間帯停留料料金制度の見直し
- T1国際線PBBスポットにおける停留料 免除時間の見直し

新着陸料割引制度の主な内容

- T1国際線旅客便への新着陸料割引を導入
- リモートスポットを使用した場合においては更なる着陸料割引を実施

第1ターミナルビル国際線スポット 着陸料 + 停留料 使用料イメージ



スポットの利便性および需要に応じて、
着陸料 + 停留料 使用料が
より変化する料金体系となります。

新停留料制度および新着陸料割引制度 導入スケジュール

2025年11月1日～および2026年11月1日～ 新料金制度を2段階で導入

2025年11月1日～

STEP 01

停留料

- ピーク時間の変更
- 基本料金・ピーク時間帯料金 単価の変更
- T1国際線PBBスポット 免除時間の変更

着陸料

- 新着陸料割引制度の導入

2026年11月1日～

STEP 02

停留料

- ピーク時間帯料金 単価の更なる変更

着陸料

- 新着陸料割引制度の割引額変更

新停留料制度および新着陸料割引制度 一覧

*赤字が前制度からの変更点

現行料金		新料金 (2025年11月1日～2026年10月31日)		新料金 (2026年11月1日～)	
停留料		停留料		停留料	
単価	(オフピーク料金) 15円 × t / 15分 (ピーク料金*) 25円 × t / 15分	単価	(基本料金) 1円 × t / 1分 + (ピーク料金*) 250円 / 1分	単価	(基本料金) 1円 × t / 1分 + (ピーク料金*) 500円 / 1分
	*T1 国際線PBBスポットのみ		*T1 国際線PBBスポットのみ		*T1 国際線PBBスポットのみ
ピーク時間	7:00-11:29,18:00-20:59	ピーク時間	11:30-13:29,15:00-18:29	ピーク時間	11:30-13:29,15:00-18:29
免除時間	T1 PBBスポット及びT2スポット 複数通路機：150分 それ以外：90分 <u>その他</u> 360分	免除時間	<u>T1 国際線PBBスポット</u> 複数通路機：90分 それ以外：60分 <u>T1 国内線PBBスポット</u> 及びT2スポット 複数通路機：150分 それ以外：90分 <u>その他</u> 360分	免除時間	<u>T1 国際線PBBスポット</u> 複数通路機：90分 それ以外：60分 <u>T1 国内線PBBスポット</u> 及びT2スポット 複数通路機：150分 それ以外：90分 <u>その他</u> 360分

着陸料		着陸料		着陸料	
単価	1,900円 × t	単価	1,900円 × t	単価	1,900円 × t
深夜早朝時間帯割引 (01:00-5:59)	-950円 × t	深夜早朝時間帯 割引(01:00-5:59)	-950円 × t	深夜早朝時間帯 割引(01:00-5:59)	-950円 × t
		第1ターミナルビル 国際線旅客便割引	T1国際線PBBスポット：-40円 × t リモートスポット：-950円 × t	第1ターミナルビル 国際線旅客便割引	T1国際線PBBスポット：-100円 × t リモートスポット：-950円 × t

新停留料制度 概要

■現在の停留料概要

15円 × t / 15分 (オフピーク時間帯)

25円 × t / 15分 (ピーク時間帯 07:00～11:29, 18:00～20:59) ※T1国際線PBBスポットのみ

● 料金体系概要

- 基本料金は深夜早朝時間帯*を除くすべての時間に適用し、1分単位での課金。基本料金にのみ免除時間を適用。
- T1国際線PBBスポットのみピーク時間帯を設定し、その時間帯はピーク料金が基本料金に加算。

● 現行制度からの主な見直し

- 免除時間の見直し (T1国際線PBBスポットのみ免除時間を短縮)
- ピーク時間帯の見直し、及びピーク料金単価の見直し。

全てのスポット

基本料金

06:00-21:59

1円 × t / 1分

※ t = 最大離陸重量



T1国際線PBBスポットのみ

ピーク料金

11:30 ~ 13:29

15:00 ~ 18:29

250円 / 1分 (2025年11月1日～2026年10月31日)



500円 / 1分 (2026年11月1日～)

免除時間	T1 国際線PBB	T1国内PBB/ T2	その他
複数通路機	90 分	150 分	360分
上記以外	60 分	90 分	360分

新着陸料割引制度 概要

■ 現在の着陸料 1,900円 × t

※深夜早朝時間帯*の着陸においては - 950円 × t の割引を実施

● 料金体系概要

- 停留料ピーク料金の単価変更に伴い、**第1ターミナルビル国際線旅客便を対象**に着陸料割引を新設。
- リモートスポットで運航を行う場合には、更なる割引を実施。
- 深夜早朝時間帯*は変わらず深夜早朝時間帯割引を実施（割引の重複適用はしない）。

T1国際線PBBスポット

- 40 円 × t (2025年11月1日～2026年10月31日)



- 100 円 × t (2026年11月1日～)

※ t = 最大離陸重量

リモートスポット

- 950 円 × t (2025年11月1日～)

〔 着陸・離陸の両方をリモートスポットから行う便が対象、
リモートスポットに一時停留する便については適用対象外 〕

※ t = 最大離陸重量